平成１８年度

「基礎・基本」定着度調査結果（概要）

（平成１９年１月調査）

平成１９年３月

鹿児島県教育委員会

平成１８年度「基礎・基本」定着度調査の結果概要

１　調査の概要

(1)　調査の趣旨・目的

新学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容のうち，「読み・書き・算」等の基礎学力について，県全体の定着度の状況を調査する。

(2)　調査の実施日　･･･　平成１９年１月１７・１８日

(3)　調査の対象等　（県内すべての公立小・中学校に実施）

校　種	学　年	調　査　内　容	実施校	児童生徒数
小学校	第５学年	国語，社会，算数，理科	５７０校	１６，３５６人
中学校	第１学年	国語，社会，数学，理科，英語	２５９校	１６，４９７人
	第２学年	国語，社会，数学，理科，英語	２６１校	１６，９７８人

＊　調査人数は，欠席等により各教科，設問によって異なる。（上記は最大値を示す。）

(4)　調査結果の活用

調査結果の概要は，県内すべての公立学校及び市町村教育委員会等へ配付するとともに，指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し，県総合教育センターのＷｅｂページに掲載し，各学校の基礎学力定着の取組を支援する。

２　結果の概要

○　各教科の平均通過率（以下通過率）は，どの教科も総じて小学校が高く，中学校が低い傾向にある。
○　中学校では，国語を除く４教科で通過率が７０％に達しておらず，基礎･基本の定着に向けた一層の取組が必要である。
○　昨年度と同傾向の問題について，通過率が上がっていない例も少なからず見られる。各学校において通過率の低い内容・領域を特定し，具体的な授業改善に取り組む必要がある。

【国語】

	平均通過率（%）		
	平１６	平１７	平１８
小学校５年	８６．５	７８．７	７５．４
中学校１年	７５．６	６５．２	７２．３
中学校２年	８１．７	７０．６	７０．９

○　小・中学校とも概ね定着している。
○　前回より中学校１年の通過率が上がっている。
○　文章構成の読み取りや，読み取ったことに自分の考えを加えて書く指導を一層充実する必要がある。

【社会】

	平均通過率（%）		
	平１６	平１７	平１８
小学校５年	７７．５	７３．５	８１．３
中学校１年	５９．３	５８．９	６３．３
中学校２年	６３．３	６３．１	６６．９

○　小学校は概ね定着しており，中学校は１年の定着が不十分である。
○　各学年とも前回より通過率が上がっており，取組の成果が見られるが，今後定着に向けた一層の取組が必要である。
○　中学校においては，繰り返し指導や定着を確認する時間を計画的に取り入れる必要がある。

【算数・数学】

	平均通過率（%）		
	平１６	平１７	平１８
小学校５年	８１．５	７２．６	７３．２
中学校１年	６４．８	７２．３	６７．５
中学校２年	６２．９	６６．８	６８．８

○　小学校は概ね定着しており，中学校は概ね定着しつつある。
○　前回より中学校１年の通過率が低くなっており，定着に向けた一層の取組が必要である。
○　通過率の低い問題を中心にした繰り返しの指導が必要である。

【理科】

	平均通過率（%）		
	平１６	平１７	平１８
小学校５年	７６．９	７６．１	７２．８
中学校１年	６３．９	６６．０	６４．８
中学校２年	５６．９	６６．９	６３．４

○　小学校は概ね定着しているが，中学校は定着が不十分である。
○　各学年とも前回より通過率がやや低くなっている。
○　観察・実験の目的意識を明確にさせ，得られた結果を知識まで確実に結びつけるよう指導を改善する必要がある。

【英語】

	平均通過率（%）		
	平１６	平１７	平１８
中学校１年	(５８.８)	(５５.７)	６８．５
中学校２年	(５９.５)	(５２.６)	５８．３

○　１年は定着しつつあるが，２年は定着が不十分である。
○　書く問題について採点の観点を増やしたため，前回との比較はできない。なお，１年生の通過率が特に高いのは，使用教科書が増え，出題可能範囲や語彙の量が制限されたためである。
○　音声を中心に基礎的な語彙・文型の定着を図った上で，正確な英文を書く指導の工夫が必要である。

目　　次

○　平成１８年度「基礎・基本」定着度調査結果（概要）の見方　・・・　１

Ⅰ　調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅱ　各教科の結果概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

１　各教科の平均通過率（県全体）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

２　各教科の内容・領域及び観点別の平均通過率（県全体）　・・・・　４
(1)　国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
(2)　社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
(3)　算数・数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
(4)　理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
(5)　英語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２

３　各設問の分類と平均通過率　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４
(1)　国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４
(2)　社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
(3)　算数・数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
(4)　理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
(5)　英語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６

４　各受検者の正答数の分布　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８

５　地区別の平均通過率　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
(1)　小学校第５学年　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
(2)　中学校第１学年　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５
(3)　中学校第２学年　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６

「基礎・基本」定着度調査結果（概要）の見方

本書は，鹿児島県教育委員会が各市町村教育委員会及び各小・中学校の協力を得て，平成１９年１月に実施した平成１８年度「基礎・基本」定着度調査の結果概要です。

１　本書の構成について

本書は，次のような構成になっています。

Ⅰ　調査の概要
Ⅱ　各教科の結果概要
　１　各教科の平均通過率（県全体）
　２　各教科の内容・領域別及び観点別の平均通過率（県全体）
　３　地区別の平均通過率

２　本書の活用について

○　調査の目的や実施の概要を知りたいとき

「Ⅰ　調査の概要」をご覧ください。

調査の趣旨・目的や実施の対象，実施方法等について説明してあります。

○　各教科の定着状況の概要を知りたいとき

「Ⅱ　各教科の結果概要（１　各教科の平均通過率）」をご覧ください。

小・中学校とも実施した教科の通過率の平均を，学年ごとに示してあります。

なお，学年ごとの平均通過率や教科別の平均通過率を比較するときには，設問内容が異なること等，単純な比較ができないことに十分留意してください。

○　各教科の定着状況を内容・領域別及び観点別に詳しく知りたいとき

「Ⅱ　各教科の結果概要（２　各教科の内容・領域別，観点別の平均通過率）及び（３　地区別の平均通過率）」をご覧ください。

小・中学校とも実施した教科の各設問を内容・領域別及び観点別に分類し，それぞれ分類ごとに通過率の平均を示してあります。なお，地区別の平均通過率についても，内容・領域別及び観点別に示してありますので参考にしてください。

３　本書に使われている用語について

○　「通過率」

各設問ごとに正答した児童生徒の数を調査実施児童生徒数で除したものを「通過率」とし，分類上，その平均をとったものを「平均通過率」としています。

○　「学力調査」

ペーパーテストにより，「基礎・基本」の定着状況を調査したものです。小学校は国語，社会，算数，理科の４教科，中学校は国語，社会，数学，理科，英語の５教科を実施しました。

なお，調査の結果及び指導方法改善のための方策等については，平成１９年５月に県総合教育センターのＷｅｂページで，指導資料として紹介する予定にしています。本書と併せて，各学校等における「基礎・基本」定着のための指導方法改善に生かしてください。

Ⅰ　調査の概要

１　趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容のうち，「読み・書き・算」等の基礎学力について，県内すべての小・中学校を対象に調査を実施し，県全体における定着度の状況を分析した上で，分析結果のまとめを作成し，今後の個に応じたきめ細かな指導方法の改善・充実に資することを目的とする。

２　調査の対象学年，学級等

(1)　県内すべての小学校第５学年，中学校第１，２学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし，複式学級を有する学校においては，履修していない内容を調査から除外して実施する。なお，小・中学校における特殊学級の児童生徒については，該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。

(2)　盲学校，聾学校及び肢体不自由者又は病弱者を教育する養護学校においては，該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学 校 種	学　年	実 施 校	調査児童生徒数
小学校（小学部）	第５学年	５７０校	１６，３５６人
中学校（中学部）	第１学年	２５９校	１６，４９７人
	第２学年	２６１校	１６，９７８人

＊　小学校の調査対象校（５９３校）のうち，２３校は第５学年に在籍者なし。
＊　中学校の調査対象校（２６５校）のうち，６校は第１学年に在籍者なし。
＊　中学校の調査対象校（２６５校）のうち，４校は第２学年に在籍者なし。
＊　調査人数は，欠席等により各教科，設問によって異なる。（上記は最大値を示す。）

３　調査の内容

学力調査

ペーパーテストにより，調査対象教科の基礎学力の定着状況（当該学年の１２月終了程度までを範囲とする）について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校（小学部）】 第５学年　　・・・　国語，社会，算数，理科
【中学校（中学部）】 第１，２学年　・・・　国語，社会，数学，理科，英語

４　調査の実施時間

学力調査　小学校(小学部)　　４５分（調査票の配布・説明等５分，調査時間４０分）
　　中学校(中学部)　　５０分（調査票の配布・説明等５分，調査時間４５分）

５　調査の実施日

平成１９年1月１７・１８日

６　調査の採点及び結果の集計・分析

(1)　各学校は，自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い，当該市町村教育委員会へ報告する。自校の調査結果については，保護者に対して説明責任を果たすとともに，今後の指導方法改善に生かす。

(2)　各市町村教育委員会は，管下の学校の調査結果を集計し，県教育委員会へ報告する。自市町村の調査結果については，自市町村の基礎学力の定着への取組に生かす。

(3)　県教育委員会は，調査結果を集計・分析し，県全体の「基礎・基本」の定着状況について公表するとともに，指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し，県総合教育センターＷｅｂページに掲載することにより，各学校の基礎学力定着への取組を支援する。